

# 初任者研修



## いつも心に「笑顔」と「感謝」

北区 泰平小学校 教諭 梅澤 一 祥

## 言葉のマジック

北区 泰平小学校 教諭 信吉 美 佳

4月の始業式を迎えるまでは「どんなクラスにしようか」「どんな授業をやっていこうか」と、考える場面がたくさんあった。ところが、いざそれを実行しようとしても、思ったとおりに物事が進むということは珍しいことだ。学級経営にしても授業にしても子どもたちの実態に合わせながら修正して取り組む日々が、12月となった今でも続いている。

教師として試行錯誤をくり返す日々が続いているが、クラスの子どもたちには何度も何度も助けられている。1学期は指示した通りの活動であったが、2学期になると学習や係活動にそれぞれが自分で考えながら、お互いに協力して「よりよいクラスのために」という共通の意識の基に活動に取り組む様子が手に取るように感じられた。この短い期間での成長に驚かされると同時に、とても頼もしく感じられる。

だからこそ、頑張っているときは、その都度褒め、どんな場面でも子どもたちが自信をもって活動できる環境づくりを忘れてはいけなと考える。「仲間を大切にする」クラスづくり、「だれもが考えを発言できる」授業づくりのためには、クラスの子どもたちの一生懸命な気持ちがあってこそ、ということに改めて気付くことができた。

クラスの子どもたちにいつも言っているように、自分自身も心に「笑顔」と「感謝」の気持ちを忘れずに、教師として成長していきたい。(梅澤)

夢であった教員となり、教壇に立ち早くも9カ月が過ぎた。めまぐるしく過ぎていく日々の中で、今日も学級の子どもたちとたくさんのことを学んでいる。改めて、赴任した当初のことを振り返ると、次々に押し寄せる仕事の波に、「目が回る」という言葉を身をもって感じ、「先生って本当にすごいな～」と、どこか客観的に思う自分がいた。9カ月たった今でも、失敗と反省の繰り返しばかりだ。

そんな中、嬉しい出来事があった。2学期のマラソン大会が終わった後、教室でずっと泣いている女の子がいた。理由を聞けば、納得のいく順位が取れず悔しかったそうだ。そのとき私は、「その悔しい涙はいい涙なんだよ」と何気なく声をかけた。後日、その子のマラソン大会の作文を添削していると、「先生のことばがうれしくて、涙が止まらなかった」とあった。何気なく発した言葉がその子の心に響いたことに驚きや喜びを感じた。

言葉はたった一言で人の気持ちを変えてしまうマジックだと思う。教壇に立ち多くの言葉を発する責任を改めて感じた。同時に、私は子どもたちからたくさんマジックをかけられている。「先生すごいね。」「先生わかったよ。」すべてが私の頑張る原動力となっている。

学校という学びと感動にあふれた場で、働く今、毎日が本当に充実し、何よりも楽しい。

今後も、言葉のマジックを子どもたちとかけ合い、共に成長し続ける教師でいたいと思っ  
ている。(信吉)